



いずみ祭



## CONTENTS

### 2023年度 聖句

「主を喜び祝うことこそ、  
あなたたちの力の源である」  
(ネヘミヤ記8章10節)



現任研修&公開講座	2
いずみ祭	3
TOPICS	4
相模原市内高校長及び教育協定校高校長と本学との 教育研究会／高校家庭科教員向け授業研究会	5



# 第54回いずみ祭のご報告

学生部長 横川 剛毅



## ◇はじめまして

「4年ぶりの開催 おかえりな祭いずみ祭」。これが2023年度いずみ祭のテーマです。学生が出し合った

候補から、学生の投票でこのキャッチーで素敵なフレーズが選ばれました。しかし、この3年間休止したため、いずみ祭を経験したことがある人はいないので、学生にとっては「はじめまして」が現実でした。

恒例の学校行事であるいずみ祭は、2020〜2022年度は代替のプログラムでした。2023年度の開催が決まったのは4月。例年だと既に骨格が固まっています、先輩である専攻科生や2年生から、後輩である1年生へとするべきことが伝えられている時期です。しかし、経験者がいないわけですから継承が全くない。しかも半年しかない。そのような状況で、10月28日(土)へ向けた準備が始まっています。

## ◇秋季イベントワーキンググループと学友会

その準備の中心を担ったのは、秋季イベントワーキンググループ(WG)と学友会の学生です。前者は、第1回の集まりでコンセプトを決めました。役割分担した後、内容の検討などに、文字通り手探りで取り組みました。後者は、執行部を

中心に計画を立て、仕事を分担し、着々と進めていきました。

いよいよ残り1か月となった9月末に立ち上がった壁。それは、このWGや学友会以外の学生に、思いのほかいずみ祭の情報が伝わっていないことでした。何をするのか分からないという不安から、さまざまな声が聞こえてきました。しかし、WGの学生はそこで心折れずに改めてみんなで取り組むことを呼びかけ、分かりやすく役割を伝えました。それに応えた多くの学生が主体的に参画しました。WGや学友会をはじめ学生は、本当にがんばりました。

## ◇加わってくださった方々

2019年度までと同様に父母会、後援会の皆様は力強い応援団です。同窓会いずみの皆さんが「いずみのひろっぱ」をご準備くださり多くの卒業生を迎えることができました。また、本学が所在する青葉二丁目自治会の皆様方は、防災コーナーに加え焼き鳥とポテトを販売してくださいました。さらに社会福祉法人さがみ愛育会「のびやか」、社会福祉法人進和学園の方がいらつしやり、手作り製品や焼き菓子をご提供くださいました。

さらに、神奈川県相模原警察署はパトカー・白バイ乗車体験なども含めた交通安全啓発を実施してくださいました。本学に近い障害者支援センター「松が丘園祭」とのコラボ企画をご提案くださり、両方のお祭りに参加した人へミニプレゼ

ントを差し上げる協働ができました。そして、松が丘園祭にご出席された本村相模原市長が、本学にもお越しになりました。相模原市との連携強化と協働は本学にとって欠かせません。市長にお出でいただけただけことは大変意義あることでした。併せて、相模原市中央保健センターから職員の皆様もお出でくださいました。ゲートである保育シンガソングライターの荒巻シャケさんは、子どもたちだけでなく多世代が一体となる楽しい時間をご提供くださいました。

このように、実にさまざまな方たちが応援してください、ご協力くださり、加わってくださいましたことに深くお礼申し上げます。当日、いずみ祭においでくださった方々は884名でした。「つなごう」が多様に具現化できたのは皆様のおかげです。誠にありがとうございました。

## ◇いずみ祭の新しいかたち

3年間の休止を経て、恒例だった「サウンドコンテスト」を実施しないことが決まっています。2019年まではこれがメインイベントでした。しかし、学生の表現活動に順位付けすることなどについて以前から指摘があったため



す。また、以前は学生が来店していた飲食物中心の模擬店も取りやめました。

それらに代わり、今年度は株式会社アキザトのご厚意をいただいで、子どもも大人も夢中になる出店企画に多くの学生で取り組みました。飲食物は株式会社シダックス・コントラクトフードサービスに多大な協力をいただきました。

新しいかたちはさまざまな発表です。学生有志によるパイプオルガン演奏の音色は心に深く響き、ダンスのパフォーマンスはキレッキレでした。また、



学生有志による「折り紙・昔遊び」、「パネルシアター&楽器演奏」など、高齢の方までが楽しめるさまざまな自主企画が展

開されました。さらに、キリスト教活動報告、南相馬市スタディーツアー報告、各サークルや団体による保育・福祉実践活動の発表、児童福祉学科、専攻科の日頃の学びの成果発表など、以前よりも和泉らしさが発揮されました。

今後もしずみ祭のかたちは変わっていくでしょう。今年度を振り返り、現1年生を中心に、「学生が考え、学生がやりたいことを、お出でくださる皆さんに楽しんでいただけるいずみ祭」をつくりあげてくれると期待し、2024年度のいずみ祭を今から楽しみにしています。

## 2023年度 表彰者

## 眞鍋記念奨学金(前期)

児童福祉学科1年 角田 結菜  
(県立上溝高等学校出身)



この度は大変名誉な賞をいただき、心より深く感謝しております。私は和泉で学ぶ物事を尊い宝物のように感じており、この学校で学べることに常に誇りを抱いています。私の目標は子どもたちの幸せのために貢献できるような人間になることです。それを実現するために、今後も和泉でひたむきに勉強し、社会に必要な人間になれるように頑張っていきます。

児童福祉学科1年 千葉 春奈  
(日本大学第三高等学校出身)



この度はこのような素晴らしい賞をいただき、大変光栄の事と存じます。和泉では、先生方の熱い講義に刺激を受け、そして心優しく生き生きとした仲間と、職員の皆様に支えられ、充実した気持ちで学びを深めていくことができていると思います。今後もしは立ち止まり振り返りながらも、人の心に寄り添い、愛を奉げられるものとなるよう、精進して参ります。

児童福祉学科2年 齋島 咲希  
(県立橋本高等学校出身)



2年前期では、実習があり、学校での学びを実際に子どもと関わる中で発揮することができたと感じます。そ

して、保育者になるにあたって自分に足りない部分を見つけることもでき、学びを振り返るなどして充実した日々を送ることができました。学生生活も残り半年、周りの方への感謝の気持ちを忘れずに、より一層学びを深めていきたいと思っています。

児童福祉学科2年 矢作 彩寧  
(県立橋本高等学校出身)



2度も眞鍋記念特別奨学生に選出されたことをとても光栄に思います。2年の前期は授業に加え幼稚園実習があり、とても充実した日々でした。9月には最後の実習も終え、学生生活も終わりが見えてきました。残りの学びにも手を抜かず、自分に足りないものを見つけ就業に向けて後悔することがないよう一日一日を大切に過ごしていきたいと思っています。

専攻科介護福祉専攻 秋山 珠穂  
(県立伊志田高等学校出身)



専攻科での前期は、忙しい日々を送りながら介護の現場で必要な基礎的知識や技術を学ぶことができました。

この基礎的知識や技術は、児童の現場や日常生活でも活かすことができると感じています。後期も、よりよい学びとなるように支えてくださる先生方や日々一緒に頑張っている専攻科生の仲間への感謝の気持ちを忘れず、介護福祉士国家試験に向けて努力していきたいと思っています。

## TOPICS

## 第25回おもちゃインストラクター養成講座開催

2023年8月25日(金)、第25回おもちゃインストラクター養成講座を開催し学生42名が受講しました。

認定NPO法人 芸術と遊び創造協会のおもちゃコンサルタントマスター 堀江愛子先生のご指導のもと、手作りおもちゃの技術を習得するとともに世界のおもちゃ文化を知り、日本のおもちゃの現状とその役割を実践的に学びました。

午前は座学、午後からは主に新聞紙を用いて体を動かす遊びを学び、最後に受講を終えた全員に認定NPO法人 芸術と遊び創造協会より「おもちゃインストラクター認定証」が授与され、有意義な講座となりました。



## 2023年度学校法人和泉短期大学「サンクスギビングフェア」を開催

2023年10月12日(木)に、「2023年度第3回 サンクスギビングフェア」(通算34回目)を開催しました。

## イベント内容

お弁当100円「ハロウィンオムライス」「パンプキンシチューライス」限定150食/キャンパスコンビニ 全商品20% OFF、250円以上購入者にはクジ引きによる景品プレゼント。

100円お弁当は人気のため先行販売で完売。キャンパスコンビニも多くの来客があり大盛況でした。今後も楽しいイベントを実施して参ります。



## 2023年度第11回保証人会(1.2年生保証人対象)を開催

2023年10月28日(土)に第11回保証人会を開催し1.2年生の保証人12名の方にお越しいただきました。大下聖治副学長の挨拶ではじまり、実習サポートセンター長の矢野由佳子准教授より「初めての実習～実習で育つ和泉生～」という内容の講演、その後、学生部長横川剛毅教授より「就職活動と進路支援」という講演でした。保証人の皆様に本学の実習、就職活動についてご理解を深めていただく機会となり、またご家庭での精神的なサポートの必要性が大変重要であることをお伝えすることができた保証人会となりました。



## 2023年度「本のPOPコンテスト」表彰式開催

2023年11月20日(月)和泉クラーク・ホールにおいて「本のPOPコンテスト」の表彰式が行われ、佐藤守男学長より入賞者に表彰状が授与されました。応募作品には、凝った作りのPOP、共感を呼ぶ紹介文、パソコンで作ったフォトやイラストにもこだわった作品など、思わず手に取ってしまいたくなるような作品が多数応募されました。

【受賞者】金賞 高橋ももこさん(2年生)/銀賞 大谷琴美さん(1年生)、鈴木早苗さん(1年生)/銅賞 原裕梨さん(1年生)



## 「第13回 相模原市内高等学校校長及び教育協定校校長と本学との教育研究会」を開催して

2023年9月4日(月)に「相模原市内高等学校校長及び教育協定校校長と本学との教育研究会」が開催された。本学は、相模原市に移転して47年の歴史を誇ります。これまで、保育・幼児教育・福祉に関わる人材養成を担ってきた本学が、地域にある各校長先生らに話題を提供し、本学教職員との意見交換を通して、学び合うことを目的とする研究会として開催されてきた経緯があります。当日は、相模原市内の高等学校7校8名、教育協定校1校1名、計8校9名の校長先生等が御出席くださいました。

話題提供では、中安が「地域でつなぐ子どもの学びと生活ー本学独自資格「こども支援ソーシャルワーカー」にかける思いー」というタイトルで講話しました。内容として、近年の児童虐待の増加、ヤングケアラー等の子どもにも関連する社会課題をあげた上で、虐待を受けて育った当事者から、「先生に SOS を発信したら 親に伝えてしまい、余計に虐待が酷くなった」、「『つらい子は他にも沢山いるよ』と返された。だから大人に相談しても無駄だと思った」等の声があることも



紹介しました。相談した子どもに対して、上手く言語化できないことに悩んでいるのか、支援に繋げてほしいのか等の子どもの気持ちを理解する必要があると。子どもの気持ちを理解しない大人側の一方的な対応では、子どもが本音を言えなくなり、気持ちを抑え込み続けることで、問題行動へと繋がる可能性もあります。このような背景からも、子どもの気持ちに寄り添いながらソーシャルワーカーの視点を持ち、子どもの人権を護れる人材を養成する「こども支援ソーシャルワーカー」という本学独自資格を創設したことをお伝えしました。

その後の意見交換会では、話題提供をもとに、各テーブルで「学校における要支援と思われる児童・生徒への対応ー実践と課題ー」をテーマに行いました。各テーブルで活発な意見があり、各学校で真剣に児童・生徒を含めその家庭に対しても真剣に向き合っていることが感じられました。その一方で、家族の形が多様になってきていること等を背景に、家庭の中に学校がどこまで介入できるのかといった葛藤もありました。特効薬のような解決案を導き出す意見交換会ではありませんが、福祉の視点を取り入れながら、各高校の取り組みを共有でき、意義のある会となりました。(准教授 中安 恆太)

## 高等学校家庭科教員向け授業研究会

「愛」の反対語は何ですか?これは、私の高校家庭科授業の導入の一節です。高校家庭科は、生活のすべての事象と課題を取り扱います。授業では科学的な分析や建設的で重層的な学びを求めます。時に、価値観や哲学に及ぶような単元もあります。高校家庭科が男女共修になって早29年が過ぎましたが、未だに家庭科Ⅱ調理と裁縫の固定観念は消えていません。ですから、冒頭の問いに戸惑った方もいらつしやるかも知れません。このように、多角的な視点が授業に求められる高校家庭科は、授業の準備に時間を要します。教員としてもっと勉強を深めたいことなど限界がありません。私が今年4月に本学の一員となってまず企画した「高校家庭科教員向け授業研究会」の発端は、このような自身の経験に基づくものでした。私の疑問や悩みは多くの家庭科の先生方と共有できるのではないかと

思ったからです。5月の1回目には懇親会とし、自校の現状を発表し合いました。特にインクルーシブ教育推進校のお話を伺えたのは本学にとっても現実味のある教育支援方法でした。6月、民間企業講師による乳酸菌の研究會。9月は中野陽子准教授による性と人権のあり方をLGBT



Qの視点から取り上げ、実際、性転換手術・戸籍変更をした方をお招きし、人のあるべき生き方を考えました。大変、感慨深い研究会となりました。

この研究会で私が求めようとしたことは、いかに「教育を開いていくか」でもありました。18歳以下人口の急激な減少は教育課題を大きく加速させています。今や「学校」と名が付く教育機関は、教育内容・教員確保等々、その存続も危ぶまれるような多くの課題を抱えています。そんな中で、本学が中心となって、校種の垣根も大人たちの肩書きも越え、ひとつになれる教育の取組みができないものかと考えていたのも事実です。特に、7月の松山洋平教授の研究会では、県立相模原城山高校生による保育発表を和泉保育園児と共に相模原市教育委員会・保育所・幼稚園・認定こども園、高校家庭科の先生方と本学が協働で創る研究会となったことは、これからの本学が目指す教育指針の理想形だったように思います。今後、11月には、吉田久仁子専任講師による「3.11から学ぶ防災・減災教育研究会」も行います。本学が切り開く他校には事例のない新たな頁は、「開かれた教育」としての「人と社会とのつながり」です。高校家庭科研究会のみならず、高等学校長教育研究会、リカレント教育、社会人教育など本学は地域社会に根ざしながら一石を投じ、100年教育の礎を實踐していくことと確信しています。

(広報渉外ユニット 横島 佳子)

## 2023年度 和泉短期大学「愛のいずみ基金奨学金」(給付型奨学金)のお願い

学校法人和泉短期大学の原点であるララ物資の精神を引き継ぐために本学教職員・法人関係者の方々からの寄付を中心とした本学独自の給付型奨学金基金を2018年度より設立しました。

現在の社会・経済環境が甚だ厳しい状況にあります。本学独自の愛のいずみ奨学金基金の趣旨をご理解のうえ、和泉短期大学の学生の支援充実のため、一人でも多くの方々のご支援、ご協力を賜りたくお願い申し上げます。

**募金目標金額** 3,000,000円  
**募金募集期間** 2023年6月～2024年3月(第6期)  
**募金金額** 1□5,000円  
**払込方法** 郵便振替口座  
 □座番号 00280-6-105705  
 □座名 学校法人 和泉短期大学  
 愛のいずみ基金奨学金

寄付者一覧(敬称略) <2023年8月1日～2023年11月20日>

池田 悦子/石川 明雄/小椋 郊一/小澤 博道/神田あおい/草間真理子/雑賀えり子/杉田 美香/曾根真理子/宮本 和武/山本美貴子/匿名希望(3件) 以上14件 193,000円

### 所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

### 法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。詳しくは下記までご連絡ください。

問合せ先 学校法人 **和泉短期大学** 庶務ユニット(法人担当)  
042-754-1133

## 2023年度「教育環境充実資金募金」のお願い

学校法人和泉短期大学は1956年4月東京都世田谷区中町に「バット博士記念養成所」を開設し、同年5月「現任訓練講習会」を開催したことに始まります。1960年、その現任訓練機関が「玉川保母専門学校」となり、1965年に「和泉短期大学」が設立され、2023年5月に学校法人和泉短期大学は創立67年を迎えました。

学校法人和泉短期大学を卒業された卒業生は20,036名の方々の働きや努力と活躍により発展成長したものと深く感謝申し上げます。次第であります。

和泉短期大学は、教育の充実を図り、学修環境整備、施設設備の維持整備を目的に2023年度も「教育環境充実資金募金」を行うことになりました。

皆様には出費多難な折とは存じますが、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

- 募金対象事業**
- 1号館 教室プロジェクター交換工事
  - ICT環境の整備
  - 1号館 大教室 ウイルス除去装置設置

寄付者一覧(敬称略) <2023年8月1日～2023年11月20日>

池田 悦子/石川 明雄/上原 孝一/小椋 郊一/小澤 博道/栗林 直樹/雑賀えり子/須山 加奈/曾根真理子/中畑 宏幸/宮本 和武/山本美貴子/匿名希望(5件) 以上17件 172,000円

**募金目標金額** 10,000,000円  
**募金募集期間** 2023年6月1日～2024年3月31日(第12期)  
**募金金額** 1 個人 1□ 5,000円  
 2 法人 1□ 10,000円

### 所得税・住民税の寄付控除

本法人への募金(寄付金)につきましては、年間2,000円を超える金額に対して、確定申告をすることにより所得税及び住民税の寄付控除を受けることができます。

### 法人募金の場合

法人からの募金(寄付金)につきましては、日本私立学校振興・共済事業団を通じて、「受配者指定寄付金」として全額損金算入することができます。

詳しくは下記までご連絡ください。  
 問合せ先 学校法人 **和泉短期大学** 庶務ユニット(法人担当)  
042-754-1133

## 相模原市オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーンに協力

11月からの児童虐待防止推進月間に先立ち、2023年10月30日(月)に相模原市長を訪問し、児童福祉学科の全学生と相模女子大学高等部の生徒が作った児童虐待防止のシンボル「オレンジリボン」2,000個を学生を代表して和泉短期大学児童福祉学科2年の田野倉碧さんと矢作彩寧さん、相模女子大学高等部3年生の3名から本村相模原市長に手渡しました。

相模原市に寄付されたオレンジリボンは、相模原市内の児童虐待通告(相談)窓口のある各区の子育てセンターや児童相談所に置かれます。また11月12日(日)のSC相模原と23日(木・祝)のノジマテスラ神奈川相模原のホームタウンゲームの際に、相模原ギオンスタジアム前のブースにて配布しました。



相模原市・本村相模原市長へオレンジリボンを手渡した様子

### 訃報

故 下田 和男 氏

和泉短期大学 元教授  
 一般社団法人日本ハンドベル連盟理事長(2023年8月28日) 主による平安をお祈りいたします。

### 表彰

キリスト教保育連盟 神奈川部会 永年勤続表彰

- 山本美貴子 教授
- 横川 剛毅 教授
- 川上美智留 庶務ユニット(経理担当)リーダー
- 三好 順平 学術情報ユニット主任

### 人事

- 任用(2023年9月1日付) 須田 叔江 広報渉外ユニット
- 任用(2023年10月1日付) 林 和也 広報渉外ユニット(契約事務職員)
- 退職(2023年9月30日付) 片野 栞 広報渉外ユニット